暮らしに生かす人権・同和教育の推進を

人権啓発講演会及び第31回日野町人権・同和教育研究集会

約200人が参加 差別のないまちづくりを

人権啓発講演会及び第31回町人権・同和教育研究集会（町人権・同和教育推進協議会ほか主催）が、2006年11月10日、町文化センターで開かれ、約200人の町民が参加しました。

開会行事で主催者代表としてあいさつした景山享弘町長は、「21世紀は人権の世紀と呼ばれているが、差別や偏見のないお互いの人権を尊重する社会にしていくために一人一人が何ができるかを問いながら考え、行動していくことが大切。会場の皆さんと共に、日野町を差別のない、明るく、安心・安全なまちにするための実践への一歩を踏み出していきたい」と語りました。

研究テーマを発表し 学習内容を確認

また、開会行事では、研究集会で学ぶ目的などをまとめた「研究集会がめざすもの」が、宇田川三枝副実行委員長の朗読により発表されました。

■研究集会がめざすもの

日野町では、町民憲章をもとに、平成5年に「日野町部落差別撤廃及び人権擁護に関する条例」を制定し、人権尊重のまちづくりを推進してきました。

保育所や学校において、教育の重要な柱として人権教育を推進するとともに、各自治会において座談会を実施するなど、地道な啓発活動が行われ、そして本集会もその推進に重要な役割を果たしてきました。

しかしながら、このような人権施策が展開されている一方で、多くの人権侵害や差別事象の発生に見られるように、人権が守られているとはいえない現実があることも事実であります。そのような事実の背景には、命を軽んじる風潮や、家庭、地域における人間関係の希薄さ、人々の孤立感などが考えられます。今後も人権に関する施策をさらに充実する必要があります。

研究集会では、家庭・学校・職場・地域で人と人とのつながりを深め、日々の生活の中で人権問題について話し合い、矛盾を感じたときは指摘しあえる関係をつくっていくことが大切であると考え、分散会等で討議してきましたが、今一歩深まりがなく、マンネリ化しているとの指摘もありました。

「研究集会がめざすもの」を発表する宇田川副実行委員長（写真中央）

そこで、第31回研究集会を迎えるにあたり、今一度「差別の現状と課題」を確認し、共通理解し問題点を明確にして今後の取り組みにつなげていきたいと思います。

第1に、「同和問題の現状と課題」について具体的な提言をいただき、課題解決に取り組む方向を確認したい。

第2に、「子どもの現状と学校教育での課題」について提言をいただき、保護者や地域住民としてともに取り組む課題を確認したい。

第3に、「社会教育での現状と課題」について提言をいただき、今後の社会教育で取り組む課題を確認したい。

過去30回の研究集会の歴史を基に、課題解決のために取り組む方向性が見出せるような研究集会にしたいと思います。そして、次期集会にはその実践を持ちより課題にどのように取り組んだかを話し合っていきたいと思います。

本日は、「落語家、露の新治さんによるお笑い人権高座」を通して、認識を深めていただきます。人権を尊重するまちづくりを推進するために、町民がお互いに交流し、人権について学習し合いましょう。

（抜粋）

この後、人権啓発講演会として、落語家の露の新治さんによる「新ちゃんのお笑い人権高座」、腹話術師の千田やすしさんによるステージ、同和教育関係者らによる研修が行われ、参加者は、盛りだくさんの内容で、さまざまな人権問題について理解を深めました。

人権啓発講演会及び
第31回日野町人権・同和教育研究集会

泣いて暮らすも一日、笑ろうて暮らすも一日。笑顔で暮らさなもったいない。

■人権啓発講演会「新ちゃんのお笑い人権高座」

講師の露の新治さんは、大阪市生まれの落語家。現在は、落語はもとより、人権高座や出前寄席など、全国で活躍しています。

今回は、自分自身の体験も織り交ぜながら、身の回りにある差別意識や、誰もが笑顔で暮らしていくことの大切さなどを得意の話術でたっぷりと聞かせ、参加者は大笑いしながら、堅苦しいと思われがちな人権問題について楽しく学習していました。

■「老い」を生きる

年齢は、今まで生きてきた時間。歓迎すべきことなのに何故嫌がるのか。老いは自分にとってありがたいこと。人の値打ちは年齢によって上がりもしないし下がりもしない。

■33代さかのぼったら、あなた一人のご先祖さんは85億人を超えまんねんで！

私たちは多くの先祖から枝分かれしてきた子孫。皆どこかでつながっているはずなのに、なぜ他人の血筋をあげつらうことができるのか。「どこで生まれて誰が親。そんなナンセンスなことを後生大事に守らなくてもええのに」

■人間の値打ちは中身やで！

身体的特徴など、自分の欠点でも落ち度でもないことで差別されたり、劣等感を感じたり。それは不当な分け隔て。

自分もかつて他人を差別していた。自分がしている差別をやめていたら、自分がされている差別を跳ね返すことができただろう。自分が差別をしているから、されている差別を跳ね返せずに受け入れなければならなかったのだろう。

■今のいじめの構造は「より弱いものいじめ」

差別は3つに分類できると思う。人から差別される「被差別」、自分で自分を差別する「自分差別、劣等感」。そして人にする差別「加差別」。差別の問題は加差別側にある。「加差別をやめなあかん」

■缶詰めのパイナップル

缶詰めにされているパイナップルは、周りを削ぎ落とされたうえにスライスされてペラペラ。おまけに芯をくり抜かれてポカンとうつろ。そんな今の私たち。「自芯」を取り戻さなければ。自芯が自信につながる。

■願いに生きる「願生（がんぼ）る」

「すべての人が笑顔で生きていけるような世の中、生きてるうちになるかならへんかはわからへんけど、願うぐらいはええやないですか。本気で願って、願いに生きたいもんでございます。」